

福岡の都市河川における親水行動観察

九州産業大学工学部 正 員 山下 三平
九州産業大学工学部 毎熊 敏彦
九州産業大学工学部 佐藤 元治

九州産業大学工学部○学正員 八島 博文
九州産業大学工学部 小川 貴史
九州産業大学工学部 松下 憲司

1. はじめに

これまでの河川事業は、治水と利水の機能に重点を置いて進められてきたため、十分に市民に開かれた空間としての整備がなされてきたとは言いがたい。しかし、特に90年代以降、親水性や河川環境を配慮した河川整備の重要性が高まってきており、これに関連する研究もみられるようになってきている。例えば、都市親水施設を対象にした距離と利用施設についての村川らの研究¹⁾、1級河川を対象とした建設省の「河川水辺の国勢調査²⁾」、アンケート調査による都市中小河川の利用形態と環境整備の関係についての房前らの研究³⁾、などがその例である。しかし、このような研究は始められてまだ日が浅く、空間形態と利用行動との関係について今後とも情報の蓄積が必要な段階にある。

本研究では、福岡市を流れる都市河川を対象として人々が河川空間を利用する仕方を観察して利用の目的、頻度、時間、利用者の構成を明らかにすることを研究の目的とするものである。

2. 観察と分析の方法

福岡市を貫流する代表的都市河川である室見川、那珂川、御笠川を対象に親水行動観察を行った。

各河川の河口から上流までを幹線道路や鉄道などを境界としてブロックにゾーン分けし、グループの人数構成、性別、目的、滞在時間の項目を調べた。観察時間は、6時から19時までとした。また、休日と平日で利用者数が変動すると予想されるため、室見川は7月30日(日)と8月4日(金)、那珂川は8月6日(日)と8月11日(金)、御笠川は8月20日(日)と8月25日(金)をそれぞれ観測日とした。

3. 結果

まず、1 Km当たりの利用者数とその男女構成を各河川ごとに調べると、1)休日と平日の人数の差は、3河川ともほとんどないこと、2)男と女の構成比は、河川と曜日に問わず約7:3であること、3)室見川の利用者数が3河川のうち圧倒的に多い一方、御笠川はもっとも少ないこと、がわかる(図-1参照)。

つぎに、1 Km当たりの利用者のグループ構成の人数を各河川ごとに調べると、2人以上の割合は、室見川の場合、休日は18.5%、平日は10.5%、那珂川の場合、休日は23.2%、平日は15.0%、御笠川の場合、休日は14.7%、平日は15.2%であり、3河川とも曜日にかかわらず、1人での利用が多い(図-2参照)。

また、行動開始時刻別人数の割合を各河川ごとに調べると、つぎのようなことがわかる。1)室見川と御笠川は朝の利用頻度が高く、昼に向かって徐々に低くなってきている。その後、夕方に向かって再び頻度が高くなる傾向がある。2)那珂川に関しては、6時台の頻度が高く7時台に急激に下がり、その後15時台から高くなる傾向がある(図-3参照)。

さいごに、1 Km当たりの滞在型と移動型の目的の利用者数を各河川ごとに調べると、河川と曜日に問わず滞在型目的に比べて移動型目的の割合が、圧倒的に多いことがわかる(図-4参照)。

4. 考察

以上の結果のうち、曜日にかかわらず、朝夕に移動型の利用が、3河川に共通して多いのは、河川空間の他の目的地への通過経路としての役割の大きさを意味するとともに、いずれの河川も夏の日の中暑さをしのぐ、高木等による日陰がすくないことによるものと思われる。また、同様に3河川に共通していることは、男性中心とした単独の利用が多いことである。以上のことを考慮して、より多様な利用のできる河川空間とするためには、3河川とも、休憩ができ日陰となる設備の設置と、滞在型を促す水

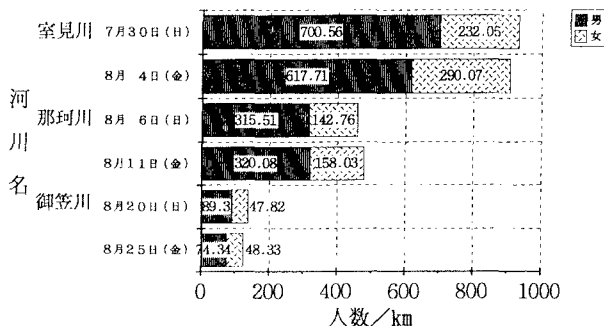


図-1 1 Km 当たりの利用者数とその男女構成

辺へのアクセス性の向上と自然の回復が必要と思われる。また、女性の利用が高まるような工夫も必要と思われる。具体策の検討も求められるだろう。

河川別にみれば、御笠川の利用はきわめて少なく、この3河川のうち最も改善を必要とする河川であると考えられる。

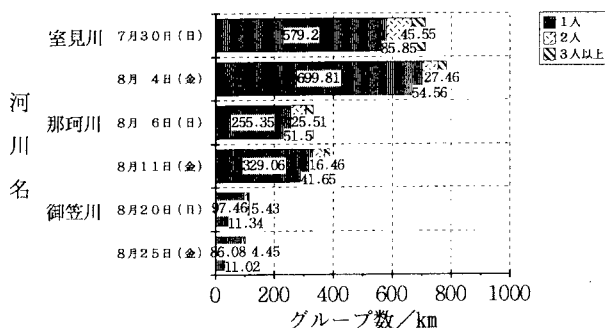


図-2 1 km 当たりのグループ構成の人数

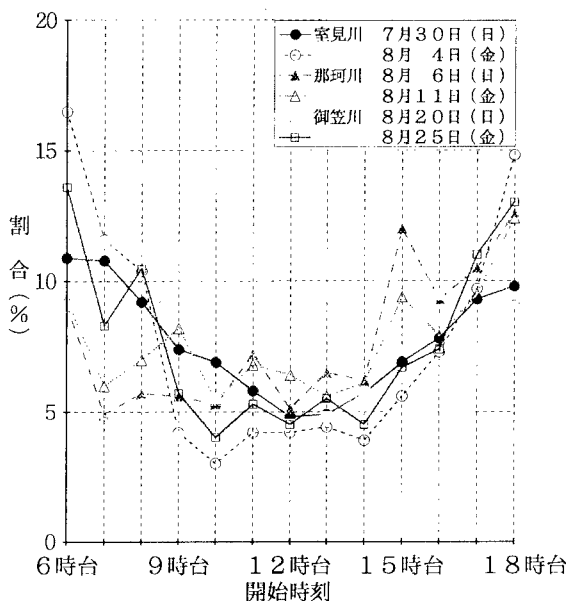


図-3 行動開始時刻別人数の割合

5. おわりに

本研究では、福岡市を流れる都市河川（室見川、那珂川、御笠川）を対象とし、その利用者の男女別、世代別、構成人数別、開始時刻別、平均滞在時間別の利用頻度を観察し都市河川空間の利用形態の特徴を検討した。今後は、施設の種類および設置密度と、上述の結果との関係を検討する予定である。

参考文献

- 1) 房前ほか：都市中小河川の利用形態と環境整備の関係についての基礎的研究；土木学会第50回年次学術講演会，pp. 274-275，1995.
- 2) 建設省河川局治水課監修 財団法人リバーフロント整備センター編集：河川水辺の国勢調査年鑑，河川空間利用実態調査編，（平成2・3年度），1993.
- 3) 村川ほか：都市内親水施設を対象とした距離圏域による住民の利用・評価の分析；日本建築学会計画系論文報告集，第389号，pp. 53-61，1988.

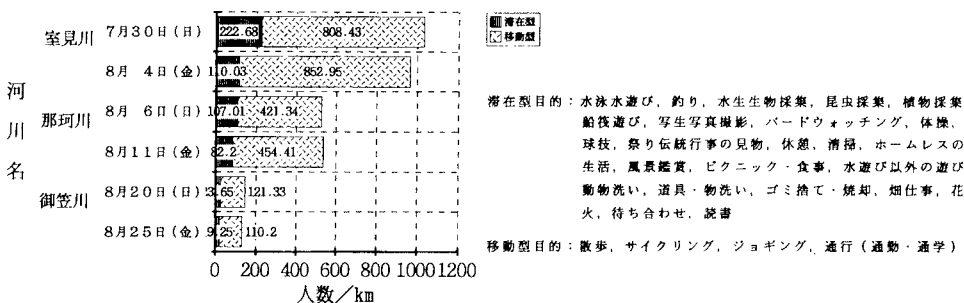


図-4 1 km 当たりの滞在型と移動型目的の利用者数